

大型水鳥類を活用した観光振興について

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会
地域づくり部会

1. ツアーに関する検討状況

(1) 旅行会社へのヒアリング

・2016年2月18日 島根県MICE等団体誘致企画&素材説明会にて、大型水鳥類を活かした発地型旅行商品開発等に向けて、大手旅行会社にヒアリングを行った。

- 何千羽も鳥が飛来し、貴重な種類が見られる地域であるとは知らなかった。
- 発地型のツアーを造成する上では、地元のガイドや観察施設などが充実していることが必要。現状では不十分と思われる。
- たとえば、鳥を見渡せる、展望台のような場所があると良いのだが。
- ガイドを依頼する場合、どこに連絡をとれば良いのかを明確にしておくことが必要。
- バスツアーでガイドさんが色々な情報を知っていることが分かったとお客さんが来る。バスガイドへ野鳥に関する情報も提供してはどうか。
- 発地型にこだわらず、当日の予定が空いた、ちょっとした時間に気軽に参加できる着地型のツアーのようなものにしてはどうか。



(2) 観光協会へのヒアリング

・上記のMICE説明会や、第1回中海・宍道湖観光協会会議事務局会(2016年9月8日)、松江観光協会(2016年9月14日)にて、主に着地型旅行商品開発等に関するヒアリングと意見交換を行った。

- 大型水鳥類を観光として成り立たせるための研究・検討は多岐にわたり、時間がかかる印象。地道に時間をかけていけば面白い内容になるとは思う。
- 着地型旅行商品の造成自体は難しくないが、商売になるかどうかは別の話である。
- 料金の発生しない場所に、観光客を誘導しても旅行会社にとってはビジネスにならないので、お金を落としてもらえような工夫や仕掛けが必要。
- 一方で、大型水鳥類という視点は新しく、情報発信のネタとして利用できる。
- 観光の現場、さらには地元でも認知度は低い。まずは、SNS等を用いて一般の方に対して情報発信し、興味のある方にはよりの確に伝えていくことが必要。
- パンフレットやチラシがあれば旅館等へ配布できる。チラシに国交省の名前が入っていると出所が分かるので、配布された側も安心。
- 鳥の飛来で人が動くという情報があれば、旅行業界も乗りやすいと思う。
- 大型水鳥類を主目的にしたツアーは現状では難しいかもしれないが、何かのついでに寄るといった形であれば可能性はある。
- 大型水鳥類も出雲大社や神話などにストーリーを繋げれば、PRしやすいのではないか。



(3) 地元旅行会社等へのヒアリング

- ・2016年11月24日 大型水鳥類を活かした着地型旅行商品開発等に向けて、地元旅行会社等にヒアリングを行った。
- 斐伊川河口で食事付きの野鳥観察ツアーを企画したことがあり、一時的に注目はされたが、有料施設を利用しないので儲けにならなかった。また、早朝に野鳥観察を行うツアーに関しては、全く問合せがなかった。
- 野鳥をメインにしたツアーの造成について、現時点ではビジネスとしては難しい。「調査事業」という形であればできなくはない。
- 観光商品で売れているのは、出雲大社関連とインバウンド向け商品。特に、これからはインバウンドにターゲットを絞ったほうが売れると思う。
- インバウンドの関係で、広島には欧米人が多く訪問している。外国人旅行者から道の駅の人気が高く、こうした場所にコアな情報を提供してはどうか。
- 地方が出来ることは、そこでしか味わえない雰囲気を伝えることだと思う。
- 情報発信するためには、魅力的な写真や動画などの素材が必要。
- 「出雲」ブランドをもっと活用したほうが良い。商品にした時の売り上げもちがう。
- 地元において大型水鳥類に関する知識を有する人が少なく、受け入れ態勢が不十分である。まずは、観光客を受入れる側を対象とした勉強会を開催してはどうか。

ツアーに関して、発地型旅行商品により観光客の訪れを待ち受けるだけでなく、訪れた観光客を地域に誘致する着地型旅行商品の検討も同時に重要とされ、既存の観光タクシーを活用したツアー造成の検討を進めていたが、タクシーやバスなどの二次交通はレンタカー利用者の勢いに押されている状況があった。また、地元での大型水鳥類への関心や認知度が低いことから、まずは訪れた観光客に対応する観光関係者を対象とし、大型水鳥類に関する講座の開催、検討を進める。さらに、インバウンドによる訪日外国人観光客の増加が見込まれることから、こうした対象に向けての情報提供やプロモーションについても検討を進める。

大型水鳥類に関する講座開催の検討

■目的：冬季観光資源としてのポテンシャルを有しながら、一般には十分認識されていない「大型水鳥類」について、その魅力や価値を地元から発信するために、観光関係者を対象に「大型水鳥類」についての知識を身に付けていただくための講座実施を検討する。

■対象：観光案内所スタッフ・飲食店経営者・観光関連の運営会社など



訪日外国人向けのPR事例（NPO法人未来守りネットワーク 奥森氏）

- ・ 境港に寄港したクルーズ客船の乗船客に折鶴をプレゼント
→元々は鬼太郎ロードを訪問した外国人観光客にプレゼントしていた
- ・ 今年度は、約5千体の折鶴を制作した
- ・ 8月9日には、ダイヤモンド・プリンセスが寄港した際に、折鶴1体を250円で販売



8月9日 ダイヤモンド・プリンセスが寄港した際の折鶴販売の様子



配布・販売していた折鶴（左：表面、右：裏面）

2. 土産物に関する検討状況

- ・2016年6月22日 出雲菓子協会総会にて、土産物開発に向けて、本業務に関わる話題提供を行い、周知を図った。

お菓子を食べれば、朱鷺が舞う
～斐伊川水系における自然と経済の両立を目指した取り組み～

平成28年6月 出雲菓子協会総会
話題提供：公益財団法人日本生態系協会 佐藤伸彦

大型水鳥5種群を指標とした斐伊川水系生態系ネットワーク

生態系ネットワークとは
そのような、生きものの生息に必要なまとまりのある重要な自然を守り、つくり、そしてついでに取組み。

「斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」

第2回検討協議会（平成27年10月13日実施）

生態系ネットワーク推進に関わる枠組みづくり
圏域の関係者が集まって意見交換などを行う「検討協議会」、および「生息環境づくり部会」「地域作り部会」を設置、運用

農業 斐伊川水系における主な「環境保全型農業」の取組

観光

圏域観光客数の減少が顕著な「冬季観光」への対応として、大型水鳥類を活かした観光企画は適切な素材（自然資源）として期待。

<内容>

- ・大型水鳥5種群を指標とした生態系ネットワーク
- ・生態系ネットワークとは
- ・生態系ネットワーク推進に関わる枠組みづくり
- 斐伊川水系生態系ネットワークによる
- 大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会
- 農業：斐伊川水系における主な「環境保全型農業」の取組
- 観光：大型水鳥類を活かした観光企画に向けた取組
- ・まとめ
- ・質疑応答

<出席者からのご意見>

- お菓子と水鳥の生態系を絡めることは、大変だということはあるにしても、非常に良い話を聞かせていただいた。
- 今後、トキの一般公開ができると、商売にも絡めていけるのかなと思う。
- 斐伊川周辺の土手にはシカがいて、土手の草を食べていて、野鳥のエサが減るなど影響が出ているのではないかと併せて、シカ対策も検討してはどうか。
- 釣りが好きで宍道湖の方にはよく行くが、大型水鳥がたくさん来ているということは初めて知った。
- 本業のお菓子の中で、環境に貢献する商品をつくっていくというのは、非常に面白いし、意義があると思う。

3.普及広報に関する検討状況

(1)一般観光客向けミニリーフレット

- ・蛇腹状のミニリーフレットを1000部程度作成
- ・カフェのレジ横や観光案内所などでの配布を検討




(2) Facebook等の活用に関する検討状況

- ・ (公財) 日本生態系協会FBにおいて、斐伊川水系の大型水鳥に関する話題を試験的に投稿中

日本生態系協会
9月30日 · 公開

【出雲市にコウノトリ飛来！】
わたしたちの協会は、島根県と鳥取県にまたがる一級河川、斐伊川（ひいかわ）の流域において、生態系ネットワークを通じた地域づくりを支援しています。
<https://www.cgr.mlit.go.jp/.../iinkai/ryuiki/econet/index.html>
斐伊川流域は、日本に生息する希少な大型水鳥類5種群（トキ・コウノトリ・ツル類・ガン類・ハクチョウ類）がセットで生息可能なポテンシャルを持った地域と言われているんです。
そんな斐伊川が流れる出雲市の田んぼで、昨日、コウノトリが見つかりました！
写真では脚環は写っていませんが、おそらく豊岡で放鳥された個体が飛来したものと思われます。
というのも、この夏、出雲市やお隣の松江市では、豊岡から飛来したコウノトリが何度も確認されているんです。
縁結びで有名な出雲。コウノトリも良縁を見つけて、是非、ここで子育てしてほしいですね。
写真：（9/28撮影）国土交通省出雲河川事務所提供



いいね! コメントする シェアする

👍 33人

シェア1件

日本生態系協会さんが米子水鳥公園さんの投稿をシェアしました。
10月13日 · 公開


ハクチョウと聞くと、いっきに冬がくるーというイメージ。
あんなに暑かったのに・・・
でも、四季があるから、多くの生きものたちがすめるんですね。

米子水鳥公園さん (📍 米子水鳥公園)。
10月11日 · 鳥取県鳥取県 米子市 · 公開

いいね!

冬の使者の飛来です。
今年、気温が下がるのが早い気がしますが、開園以来2番目に早い飛来です。
これは、ヒシクイですが、コハクチョウがやってきました

http://yonagomizutori.blogspot.jp/2016/10/blog-post_11.html



速報！コハクチョウがやってきた！
今朝、皆様お待ちかねのコハクチョウが米子水鳥公園にやってきました！コハクチョウの取材に来ていた報道機関の記者さんが、...

YONAGOMIZUTORI.BLOGSPOT.COM | 作成: NAKAUMIMIZUTORI

いいね! コメントする シェアする

👍 11人

日本生態系協会
11月4日 15:12 · 公開

「生態系ネットワークを通じた地域づくり」の関係でお世話になっている米子水鳥公園より、心配なニュースです。
<http://www.sankei.com/west/news/161031/wst1610310115-n1.html>
毎年のように訪れてくれる公園のアイドル、クロツラヘラサギが、先日釣り糸に絡まってしまい、緊急入院とのこと。
また飛べるようになるかは予断の許さない状況のようですが、何とか回復してくれることを祈ります。
それにしても、釣り糸被害は全国的に深刻です...
http://kyushu.env.go.jp/to_2014/data/1121aa-1.pdf



みんなてクロツラヘラサギを守ろう!!
釣り糸をすてないで。

いいね! コメントする シェアする

👍 😬 😡 23人

シェア2件

4. 中海・宍道湖・大山圏域市長会による取り組み状況

- ・今年度実施予定の「自然環境豊かな中海・宍道湖の活用プロジェクト」の中で、大型水鳥類に関連した事業として、以下のような検討が進められている。

- ◆ 中海・宍道湖 水鳥フォトコンテスト
- ◆ バードウォッチングポイントパンフレット作成（日本語版と英語版）
- ◆ 中海・宍道湖周辺スタンプラリー

中海・宍道湖 水鳥フォトコンテスト

主催：中海・宍道湖・大山圏域市長会

後援：国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所、鳥取県、島根県、

中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会

テーマ：水鳥に愛される山陰の水辺

中海・宍道湖圏域に飛来し、生息する水鳥を写真にとらえ、水鳥に愛される本圏域の自然環境の魅力を伝える作品を募集

募集期間：平成28年11月1日～平成29年1月10日

問い合わせ先：山陰中央新報社地域振興部

備考：

- ・ フォトコンテスト募集作品のうち一部作品は、名古屋市内（中部日本ビルディング3F中日写真協会ギャラリー）にて展示・審査し（2月頃）入賞作品を名古屋市内（オアシス21）にて展示予定（3月頃）
- ・ 山陰いいものマルシェin出雲（平成29年3月5日）にて展示予定

中海・宍道湖
NAKAUMI・SHINJIKO MIZUTORI PHOTO CONTEST
水鳥フォトコンテスト
作品募集

水鳥の楽園

国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されている「中海・宍道湖」は、毎年さまざまな種類の水鳥が飛来し、冬を越す西日本有数の生息地です。水鳥の楽園でもあるこの自然環境豊かな「水鳥に愛される山陰の水辺」の魅力を伝えたい。写真作品を募集します。

応募締切
2017年
1月10日(火)
必着

賞

- 最優秀賞 1点 (賞状・賞金5万円・副賞)
- 優秀賞 2点 (賞状・賞金1万円・副賞)
- 入賞 3点 (賞状・副賞)
- 特別賞 数点 (賞状・副賞)

作品発表

入賞作品は、山陰中央新報社上で発表します。

お問い合わせ・作品応募先

〒690-8688 島根県松江府街383
山陰中央新報社 地域振興部「水鳥フォトコンテスト」係
電話 0852-32-3388

主催：中海・宍道湖・大山圏域市長会
後援：国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所、鳥取県、島根県、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会

中海・宍道湖 水鳥フォトコンテスト 応募規定

テーマ

「水鳥に愛される山陰の水辺」

応募資格

①プロ、アマチュアを問わず、どなたでも応募可能です。
②応募者は応募作品の作者本人に限ります。

作品受付

応募締切は、2017年1月10日(火)17時必着

応募方法

応募作品は、下記に先行して申込またはお申し込みください。
お問い合わせ先 作品応募先
〒690-8688 島根県松江府街383
山陰中央新報社 地域振興部「水鳥フォトコンテスト」係
電話 0852-32-3388
※「応募票」を作品の裏側に貼り付けてください。

賞

最優秀賞 1点 (賞状・賞金5万円・副賞)
優秀賞 2点 (賞状・賞金1万円・副賞)
入賞 3点 (賞状・副賞)
特別賞 数点 (賞状・副賞)

審査

主催者が主催する審査委員会において、賞を審査決定します。審査委員は、佐藤正氏、古川康氏、橋本孝志氏ほか。

入賞発表

作品発表後、入賞者への連絡、また中海・宍道湖・大山圏域市長会のホームページ、新聞紙上等で発表します。

【中海・宍道湖水鳥フォトコンテスト】応募票

交付No. 交付日

氏名

住所

電話番号

生年月日 性別 年齢

撮影日時

カメラ

フィルム

5.今後の進め方

項目 \ 年度	2016	2017	2018	2019	2020
(他地域の事例や本地域の観光資源に関する新たな知見の収集・整理)	[Green bar spanning 2016-2020]				
ツアー開発の検討	着地型旅行商品の検討 [Green arrow pointing down] 観光関係者 大型水鳥類の勉強会 [Blue bar] 体験型プランの検討・試行・実践 (エコネット米を使った和菓子づくり、藁細工づくり、大型水鳥のための環境管理 など) [Blue bar]	[Blue bar]	[Blue bar]	[Blue bar]	[Blue bar]
土産物に関する検討	製菓メーカー等ヒアリング [Blue bar]	環境保全型米を用いた 菓子の開発等の検討 [Blue bar] その他の土産物に係る 大型水鳥類との連携可能性検討 [Blue bar]	販促等検討 [Blue bar]		
普及広報に関する検討	キャッチコピーの検討 (神話の國に大型水鳥5種が舞う) [Blue bar] SNS試行 連携先の開拓 [Blue bar]	シンボルマークの検討 [Blue bar] SNSによる広報・効果検証 [Blue bar]			
	キャンペーン検討・実施(不昧公200年祭との 連携・記紀編さん1300年記念事業との連携) [Blue bar]		効果検証・継続or新規検討 [Blue bar]		

参考＜先行事例＞

立入が制限された自然へのアクセスを「売り」とする観光 —順天（スンチョン）自然生態公園（韓国）

【位置】 韓国南部に位置する河口湿地約2,800haの保護区

【関係者】 韓国政府、NGO

【来場者数】 年間約500万人（2015年）

【入場料】 約500円

【特徴】

- ・ 2006年ラムサール条約登録湿地
- ・ 開園当初(2004年)は年間10万人程度、**2014年は300万人以上、2015年は500万人以上**もの人が来園
- ・ 入園料（2015年は約**25億円**）の他、カフェ、観光船や売店、ビジターセンターの雇用が発生し、**その経済効果は莫大**
- ・ ネイチャーガイドの雇用もあり**若者の市への定着率が高い**
- ・ 当地で越冬するツル類の保護のため、近隣の水田約300haではツルの採食地となるよう、環境に配慮した農業を推進

【施設内の様子】

- ① ヨシ原に広がるボードウォーク（総延長1.2km）
- ② ビジターセンター（展望台と学習施設）
- ③ 周辺にはカフェやレストランが多数並ぶ
- ④ ギフトショップ
- ⑤ 釣り船が運行禁止のため観光船として活用



全体図



—WWT(水鳥湿地トラスト)ロンドン湿地センター (英国)

【位置】 ロンドン中心部より10kmほど南西に位置するテムズ川河畔約42ha

【関係者】 NGO:水鳥湿地トラスト

【来場者数】 年間約23万人

【入場料】 約1,500円 (寄付つき約1,600円)

【特徴】

- ・ 希少種に指定されている水鳥類が飛来する貯水池を埋め立てて、宅地開発を行う予定であった場所を湿地として保全 (一部は宅地開発)
- ・ 整備前と比較して、近隣の住宅の**不動産価格も上昇**
- ・ 異なる大きさの池や植生帯の整備により、年間約150種の野鳥を観察

【施設内の様子】

- ① ガイド同伴のツアー客
 - ② コーヒーを片手に散歩する若者
 - ③ 子ども連れの家族やグループ
 - ④ 観察ルート (木道) 沿いのセルフガイド
- 本格的なバードウォッチャーだけでなく、地域の憩いの場としても活用



全体図

- ⑤ 企業の協賛により建てられた観察施設が複数存在
- ⑥ 売り上げの一部が寄付となるギフトショップ
- ⑦ 環境配慮型農法の農産物を用いたカフェ



■自然と共生する産業を営む人が、自らの仕事を「売り」とする観光

—知床

【位置】北海道羅臼町

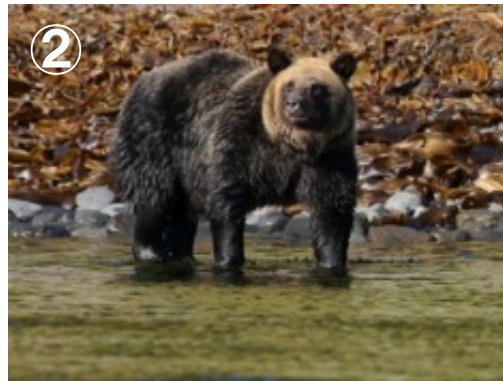
【関係者】株式会社 知床らうすリンクル、
羅臼町遊漁船部所属 瀬渡し会など

【特徴】

- ・世界自然遺産に登録された知床の海を普段はウニや昆布漁を営む漁師さんならではの案内で巡るツアーの開催
- ・自らの仕事である昆布やウニ漁の様子を見せるとともに、その地にくらす人びとの暮らしについて学んだり、ヒグマやシャチなどの野生生物の観察、地元食材を使用したランチを食べたりすることができる
- ・道東では、バードウォッチング目当ての外国人観光客の訪問が増加（特に、冬季における流氷とワシなどの見学が人気）

【ツアーの様子】

- ① ツアーで使用する小型船は漁船ならではの臨場感を楽しめる
- ② ヒグマやシャチなどの野生生物と遭遇することもある
- ③ 地元食材を使用したランチ



Lindleウェブサイトより

＜知床岬赤岩地区 羅臼昆布エコツアー＞

目的	<p>知床岬の先端部赤岩地区で行われている昔ながらの昆布漁に触れ、知床半島先端部において自然と共生しながら漁業を営んできた歴史・文化を学ぶ機会をエコツアーとして提供すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本来の羅臼昆布漁の漁法・先人の苦労を学ぶ 2) 羅臼昆布漁の歴史を学ぶ 3) 知床岬先端部の暮らしについて学ぶ 4) 知床の自然の雄大さ・過酷さ・恵みについて学ぶ
実施内容	<p>○期間 7月15日～8月15日（約30日）</p> <p>○場所 知床岬赤岩地区</p> <p>○催行者 観光協会員（ガイド）が登録ガイドを随行し実施する</p> <p>ツアー催行について観光協会が掌握する</p> <p>○対象 昆布を中心とした羅臼の人と自然のかかわりの歴史に関心がある人</p> <p>○料金 30,000円</p> <p>○ツアースケジュール（案）</p> <p>【前日】 羅臼ビジターセンターにおいてガイドと合流 知床自然、漁業、知床の心得についてガイドがレクチャー 水産物鮮度保持施設（昆布倉庫）、現在の昆布番屋の見学</p> <p>【当日】 相泊港出港 船上で知床半島に関するレクチャー、ネイチャーウォッチング</p> <p>赤岩地区到着 昆布漁見学 船上でガイドが昆布漁を解説する 赤岩地区礫浜に上陸 昆布洗い・干し作業を見学、昆布番屋の紹介、ガイドによる解説</p> <p>赤岩地区で乗船・出港、相泊港へ帰港 ルサフィールドハウスにて振り返り、情報提供</p>

平成26年度第1回知床世界自然遺産地域連絡会議資料より

■第一次産業と昔ながらの街並みを「売り」とする観光

一豊岡市

【位置】 兵庫県豊岡市

【関係者】 行政、コウノトリの郷公園、博物館、観光協会、市民団体、漁協など

【来場者数】 年間約30万人（兵庫県立コウノトリの郷公園）

年間約88万人（城崎温泉：平成26年度）

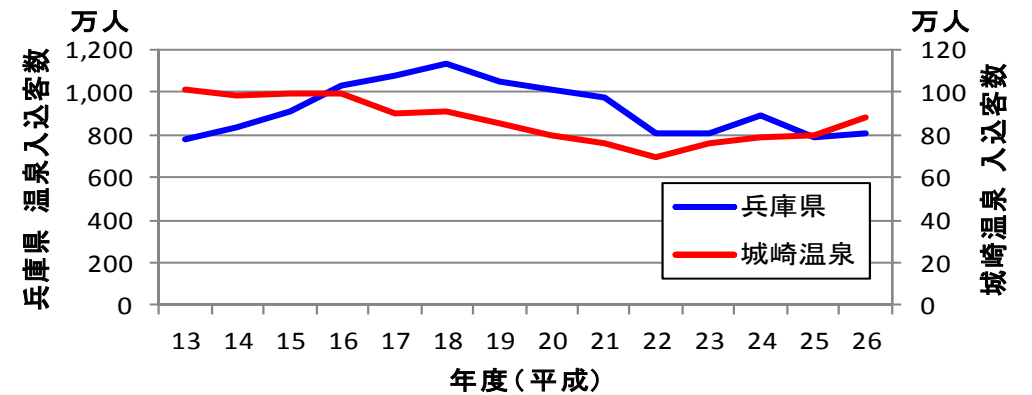
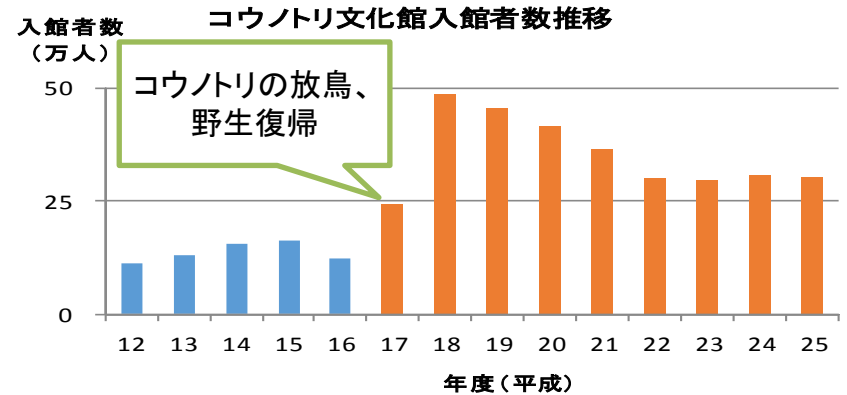
【入場料】 無料（兵庫県立コウノトリ郷公園）

【特徴】

- ・コウノトリの野生復帰に向け、堤外・堤内でコウノトリもすすめる豊かな自然環境づくりを推進
- ・環境配慮型農法で作られた農産物は、従来品の1.25～3倍の高値で販売
- ・コウノトリ文化館（コウノトリの郷公園に併設）来館者数は平成17年のコウノトリ野生復帰を境に増加、およそ30万人/年程度で推移
- ・城崎温泉では温泉街の伝統的建造物の保存に努める等、昔ながらの街並みの保全を推進
- ・兵庫県全体の温泉を目的とした入込客数は平成18年度をピークに減少傾向を示すが、城崎温泉は平成22年度までの減少傾向を境に年々増加傾向を示す
- ・城崎温泉の外国人宿泊数は、平成23年は1,100人程だったが、平成26年は約14,000人と増加

【各地の様子】

- ①兵庫県立コウノトリの郷公園
- ②城崎温泉街
- ③コウノトリの生息に配慮してつくられた「コウノトリ育むお米」
- ④「コウノトリ育むお米」を使用したスイーツ（お土産商品）
- ⑤コウノトリをテーマとした旅行商品（JTB）



豊岡わこう堂ウェブサイトより

城崎スイーツウェブサイトより